

森林認証制度の種類

認証の名称

特徴

ロゴマーク

SGEC
『緑の循環』認証
会議
(Sustainable Green
Ecosystem Council)

- ◆2001年に、(社)日本林業協会が、林業・木材産業界、学識者、環境NGOの協力も得て、人工林の多い日本の森林の特色を踏まえた日本独自の認証制度の創設を提言。
- ◆2003年に正式に発足（事務局：日本）。
- ◆2014年にPEFCに加入し、SGEC規格文書の見直しなどを経て、2016年6月に相互承認。
- ◆これにより、SGEC認証材にPEFCのマークをつけ、国際的に認められた認証材として流通可能。



PEFC
(Programme for the
Endorsement of Forest
Certification schemes)

- ◆1999年にパリで発足（本部：スイス）。
- ◆欧州各国のNGOが国毎に創設した森林認証制度を相互承認する仕組み。
- ◆相互承認された認証材には統一したマークをつけ流通させることが可能となる。
- ◆欧州を中心に取得が進み、世界ではFSCを凌ぐ認証林面積を有する国際的な制度。



FSC
森林管理協議会
(Forest Stewardship
Council)

- ◆1990年に、木材の消費者、流通業者、環境団体、人権団体が世界の森林減少問題を懸念し、林産物が適切に経営された森林から責任を持って生産されたことを証明する制度の必要性を議論。
- ◆1993年にWWF(世界自然保護基金)を中心に発足（本部：ドイツ）。
- ◆世界規模で展開する国際的な制度。
- ◆主に熱帯等を含めた天然林の多い地域がターゲット。



責任ある森林管理
のマーク

* 森林認証制度は、JASのような製品の品質を保証するものではありません。